

- フォルクスワーゲングループジャパン、VW[ポロ]のエアバック制御コンピュータに不具合があるとしてリコール
14年7月15日～同年10月17日に輸入された1127台
エアバック制御コンピュータにおいて、加速度センサーの製造が不適切な為、自己診断により当該センサーの異常を検知することがある。その為、エアバック警告灯が点灯するとともに、フロントエアバック、サイドエアバック及びカーテンエアバックが作動しない恐れがある。
- 日産自動車、「GT-R(R35)」のステアリングコラムに不具合があるとしてリコール 07年10月9日～08年5月14日に生産した2893台
ステアリングコラムにおいて、アウターチューブの真円度が不適切な為、内側のベアリングに掛かる荷重が不均一なものがある。その為、そのまま使用を続けると、ベアリングが破損してハンドルの上下方向のガタが大きくなり、最悪の場合、ハンドル前後方向の固定ができなくなる恐れがある。
- 三菱自動車、「ミニキャブ」等計5車種、日産OEM「クリッパー」等計3車種のエンジン制御コンピュータ(ECU)に不具合があるとしてリコール
ECUのIC製造工程管理が不適切な為、使用過程での環境温度変化により、IC内部の配線が断線することがある。その為、燃料ポンプ制御に異常が生じ、燃料が適正に供給されなくなり、最悪の場合、始動不能または走行中エンストに至る恐れがある。 08年9月2日～11年1月24日に生産した3万1672台
- 三菱ふそうトラック・バス、「エアロエース」等計2車種、日産ディ及びUDトラックスOEM「スペースアローA」等計2車種のリアウインカー及び左側ミラーステーに不具合があるとしてリコール
リアウインカーが07年9月4日～15年1月9日に生産した4509台。左側ミラーステーが07年10月1日～14年12月15日に生産した867台
リアウインカーについては、長時間点滅を繰り返して行くと、橙色キャップ上部が溶損する場合がある。その為、そのままの状態で使用を続けると、キャップの気化成分でレンズ内面が白濁すると共に、キャップ上部に穴が開く恐れがある。又、左側ミラーステーは、組立方法が不適切な為、取付ボルトの軸力が弱いものがある。その為、走行時の振動等により亀裂が生じ、そのままの状態で使用を続けると、亀裂が進展して、最悪の場合、左側ミラーが脱落する恐れがある。
- いすゞ自動車、「エルフ」、日産OEM「アトラス」、日産ディ及びUDトラックスOEM「コンドル」、マツダOEM「タイタン」の燃料タンクに不具合があるとしてリコール
09年8月17日～13年8月30日に生産した計1万6983台
燃料タンク内部のバッフプレート(燃料液面の振動を抑止する仕切板)を燃料タンクに溶接する強度が不足している為、燃料の揺動によりバッフプレートが変動して、スポット溶接部に亀裂が生じるものがある。その為、そのまま使用を続けると、亀裂が燃料タンクまで進行し、最悪の場合、燃料が漏れる恐れ。
- スズキ、「ワゴンR」、マツダOEM「フレア」のハイマウントストップランプに不具合があるとしてリコール
ハイマウントストップランプにおいて、LED素子内部の電気基板の設計が不適切な為、電気基板が腐食し導通不良を起こすものがある。その為、そのまま使用を続けると、ランプが点灯しなくなる恐れがある。 12年10月31日～13年3月7日に生産した8万5088台